

## 海外安全対策情報（2014年4月～6月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

### 1 社会・治安情勢

当地は政治的には安定しており、現在のところ緊急事態に発展するような反政府勢力等の動きは特段見られない。

また当地ではサハリン州が北方領土を「行政管轄」していることから、北方領土問題については、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年2月7日（我が国では「北方領土の日」）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。なお、本年については同様の集会等は行われていないが、時の日露関係の情勢に応じて抗議集会の程度や規模も異なっており、今後も引き続き注意を要する。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般的治安情勢に関しては、殺人や女性などの弱者を狙った路上強盗や住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者をも含む女性への婦女暴行、大麻等の薬物所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多いが、金品の強奪を目的としたものも発生している。当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも過去発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

(2) 治安当局の発表によれば、2013年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は12,338件であり、2012年（10,218件）に比較し、2000件強の大幅な増加となった。以下の内訳にもあるとおり、2013年は前年と比べ殺人事件の登録件数は減少しているものの、重度傷害、強盗、薬物違法流通等の主要な凶悪犯罪はいずれも増加しており、強姦罪にいたっては前年の2倍である。その他窃盗、詐欺、粗暴行為についても軒並み増加している状況であり、犯罪登録件数上、当地治安情勢は一昨年から悪化の傾向が継続している。これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢はこれまで以上に予断を許さない状況にあると言える。

(3) 主な内訳（括弧内は前年比）

ア 殺人及び殺人未遂：72件（76，6％）

イ 重度傷害：220件（118，9％）

ウ 強姦及び強姦未遂：12件（200％）

エ 強盗：38件（108，6％）

オ 略奪：425件（108，7％）

カ 窃盗：5299件（128，0％）

- キ 詐欺：709件（154，1％）
- ク 粗暴行為：15件（166，7％）
- ケ 薬物の違法流通：1219件（115，0％）

(4) 邦人被害事案

特になし

(5) 邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）

ア 強盗

- ① 5月27日夜，42歳のヤブラチヌィ村の男性住民が強盗にあったとサハリン州内務局ホルムスク市警察に通報した。男性は警察に対して昼間，商店に行き，そこで酔っ払いと言いつ争いになったと伝えた。言いつ争いは，暴力に発展し，酔っ払いは，被害者男性に負傷を与えた。その際，被害者男性は，警察に助けを求めることを決め，携帯電話を取り出した。犯人は電話を邪魔するために，被害者を脅迫し始めたが，被害者から拒否されると，電話を奪い取り，現場から逃走した。この状況の中でも，被害者は，警察と連絡を取り，事件のことを通報した。まもなく，容疑者が特定され，彼は拘束された。容疑者は，28歳の無職の地元住民と判明した。盗まれた電話は，押収され，所有者に返還された。この事実に関し，強盗の刑事事件が提起された。
- ② 6月10日の強盗，窃盗及び詐欺行為による財産の略奪を行ったウグレゴルスク市の前科のある25歳の住民が，ウグレゴルスク市裁判所の判決で有罪を言い渡された。刑事事件裁判の審理の過程で，既決囚が処々の食料品店を密かに訪れ，そして，店員の目を盗んで食料品3459ルーブル相当を盗み，自らの犯罪行為の最後の締めくくりとして，運送業者の女性に対して武器を使用して生命にとって危険な暴力により25万ルーブル以上の金銭を強奪した。裁判官は，既決囚の行為に対する告訴についての検察の意見に同意するとともに，刑事罰の措置に関する検察の意見を支持した。罪人は判決で矯正収容所での7年間の自由剥奪による服役が言い渡されたほか，既決囚に対し，被害者に10万ルーブルの精神的損害の賠償支払い及び被害者の治療費用4万9898ルーブルの支払い義務を負わせた。
- ③ 6月21日，アニワ市に配置されているサハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察に76歳の女性年金受給者から強盗にあったとの申告を受けた。サハリン州内務局によると，この日，被害者のもとに，ある会社の商品の広告業務に従事する若者が訪れた。その際，被害者は，押し売りは嫌いであり，商品も必要ないと言いつ断ったが，若い販売員は，机の上にあった金を見つけ，チラシを取るかのようにその金を奪った。老人は当然，犯人に抵抗することができなかつた。捜査活動の過程で，警察官は，容疑者の19歳のウグレザボーツク住民を発見した。盗品の一部を押収されたが，残りは犯人が使っていた。この男性は以前から警察にマークされ，前科がある。この事実に関し，強盗の刑事事件が提起された。

- ④ 6月24日、オハ市において、サハリン州内務局オハ市警察捜査課の警察官が、28歳の地元住人を拘束した。容疑者は、強盗の嫌疑が掛けられている。サハリン州内務局によると、先週、市営公園において、犯人が女性の腕からカバンを奪い取り、隠した。犯人は婦人用カバンを捨て、金は個人的なものに使用していた。2日が経過し、彼は、商店に年配の女性がいるのに気付き、そして、家まで彼女の後をつけ、家の入口で強盗を行った。犯人は、肉体的な優位性を利用し、そして、激しい抵抗には合わないと分かっている、年金受給者の女性を突き飛ばした。それが原因で彼女は腕に怪我を負った。その後、犯人は、彼女のカバンを奪い取った。今回の犯行で犯人は500ルーブルを獲た。強盗の事実により、刑事事件が提起された。盗品の一部は、年金受給者の女性に返還された。容疑者は現在失業し、強盗の前科がある。
- ⑤ サハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察の捜査員は、捜査活動措置の過程で、連続強盗の容疑者の人定及び居住地を特定した。サハリン州内務局によると、35歳の首謀者は拘束され、首謀者を援助した2人の未成年者には、現在地から離れないことを確約する署名措置を行わせた。犯人は6月16日、マスクを付け、殺傷能力のあるけん銃を持って、ユジノサハリンスクのある商店に押し入った。武器で店員を脅しながら、犯人は、レジから出るよう要求し、レジから2万ルーブルを盗んだ。その後、容疑者は事件現場から姿を消した。1週間が経過し、犯人達は、2箇所の商店で2時間置きに強盗を行った。犯人達は、計画どおりに行動し、2件の強盗の内、1件では、けん銃のほかに武器としてナイフを使用した。今回、彼らは、最初の店のレジから5000ルーブル、次の店のレジから3000ルーブルを盗んだ。強盗の事実に関して、3件の刑事事件が提起された。

## イ 殺人

- ① 4月14日の朝、オハ市ジェルジンスキー通り14に所在のアパートにおいて、多数の打撲痕及びナイフによる傷痕がある83歳の同アパートの女性所有者の死体を発見した。この犯罪を行った容疑で27歳の前科がある地元住民が拘束された。女性は、水道混合機の交換を行うため、水道配管工を呼んだ。しかし、彼女は取替え工事に来た若い作業員の仕事に不満が残り、作業員に対して設置した水道混合機を撤去するよう電話をかけた。4月12日土曜日に配管工は、1日に何度も女性所有者のもとを訪れ、女性所有者に水道混合機は正確に設置したと説明した。次に配管工が彼女のもとを訪れた際、彼はアルコールによる酩酊状態であり、その状態で彼は彼女に対してバルブは正確に設置したと説明した。この際、両者の間でいがみ合いとなり、配管工は腹を立て、女性の手や足に自らの手や足を使って多数の打撲を負わせ、その後、配管工は包丁を手に取り、少なくとも6回、女性の首、胸を刺した。その後、配管工は事件現場から立ち去った。

- ② サハリン州捜査局ドリンスク支部において、ドリンスク市ハバロフス通り3に所在のアパートの一室に胸にナイフの傷のあるソーコル村の住民の遺体を発見したとの通報を受けた。サハリン州捜査委員会によると、この犯罪を行った人物を特定した。この前科がある25歳の地元住民はドリンスク支部によって殺人罪の刑事事件で起訴された。2014年5月4日、容疑者のところで子供が生まれ、彼はこの出来事を祝った。夜、被害者と容疑者は一緒に幼い子供がいる容疑者の家に到着した。若い男性達は、アルコール飲料を飲み続けた。飲んでいる途中で彼らの間で喧嘩が起こり、その結果、容疑者は、包丁を手に取り、友人の心臓の部分に1回刺した。事件現場で刺され、負傷した被害者は死亡した。現在、証拠の収集と確保に向け、捜査活動が行われている。
- ③ 6月20日、サハリン州内務局ノグリキ市警察によりノグリキ地区の園芸敷地の火災現場で暴力を受け死亡した痕跡のある男性の遺体が発見された。サハリン州内務局によると、被害者の交友関係を明らかにする過程で、ノグリキ村の住民である27歳の前科がある容疑者が判明した。容疑者は警察に引き渡された。

#### ウ 暴行・傷害等

- ①〔傷害〕4月17日、サハリン州内務局において、ユジノサハリンスク市パペーダ大通り6Aに所在のユジノサハリンスク移民局からの警報を受理した。数分の間に、事件現場に警察官が到着し、多数の負傷がある39歳のユジノサハリンスク住人を発見した。目撃者の話では、被害者と4名の若者の間で掴み合いの喧嘩が起こった。被害者の保護するために、州中心に居住する26歳の男性が喧嘩の平和的な解決のため仲裁に入った。しかし、男性達の暴行は続けられた。この際、仲裁に入った若者が空気銃を取り出し、空中に2度、警告射撃を行った。喧嘩はその時丁度、終わり、喧嘩の首謀者は急いで事件現場から逃走した。若者は、武器と全ての必要な書類を警察に提出した。負傷男性は、警察に申告書の提出及び医療検査を拒否した。
- ②〔傷害〕26歳のスミルヌィフ市の住民に対する刑事事件はサハリン州捜査局スミルヌィフ地区捜査課により捜査が完了した。彼は官憲に対する暴行（ロシア刑法典第318条第1項）により告発された。サハリン州捜査委員会によると、2014年5月14日、サハリン州内務局スミルヌィフ警察署長は、仕事を終え、帰宅した。玄関口に近づきながら彼は卑猥な悪口を言っているアルコールに酔った状態の2人の若者を見つけた。警察官は、その若者に注意を与えたが、容疑者は、警察官の制服を掴んで押しやり始めた。自ら人権に反する行為を続けながら、容疑者は、警察官を壁に押し付け、前腕で警察官の首を締め付け、肉体的な苦痛を与えたもの。
- ③〔傷害〕5月26日の夜、サハリン州内務局ホルムスク市警察は、救急隊員から左胸を負傷している43歳の男性に関する通報を受理した。男性は軽症に見えたが、その後、彼は中央病院に入院した。その後の捜査で被害者男性を負傷させたのは彼

の妻であることが明らかとなった。被害者男性はいつものように飲酒し、その後、彼女（妻）を殴ったと女性は警察に申告した。事件の夜、夫婦は、一緒に飲酒し、ある時、夫婦の間で日常生活のことで喧嘩となり、夫は妻を殴った。この時、妻の我慢は限度を超えた。夫が喫煙のため、バルコニーに出た際、彼女は包丁を手に取り、夫に近づき、彼の胸に負傷を与えた。容疑者である妻は、血を見て、正気を取り戻し、救急車を呼んだ。被害者の夫の生命には差し迫った危険はなかった。この事実に関して刑事事件が提起された。

- ④〔傷害未遂〕6月13日、ユジノサハリンスク市内のあるインターネットサロンにユジノサハリンスクの男性住民が立ち寄り、携帯電話のバッテリーの充電を依頼した。その後、インターネットサロンの管理者は、男性にその様なサービスは行っていないと説明したところ、男性は立ち去った。2時間30分後、男性は戻ってきて、管理者を脅しながら、殺傷能力のあるけん銃を管理者に向け発射した。幸いにも弾は外れ、惨事を回避することができた。インターネットサロンの入場客の援助を得て、犯人を無害化し、警察に通報した。事件現場に到着した民間警備員により男性は拘束され、以後の捜査のため、警察に引き渡された。この事実に関して刑事事件（殺人又は重大な健康被害の惹起の脅迫）が提起された。拘束された28歳の容疑者は、軽度のアルコール酔いの状態だった。
- ⑤〔傷害〕6月17日、アニワ市の救急隊がアルコールによる酩酊状態の刺し傷がある34歳の地元住民を病院に搬送した。この事実について、病院の医師は、アニワ市に配置されていたサハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察の警察官に通報した。事件日にアルコール飲料の乱飲傾向がある1組の家族の間で喧嘩が発生した。捜査の過程で、28歳の妻がナイフで夫の腹部を負傷させた。その後、彼女は、事件を認識し、救急車を呼んだ。警察官は、この妻を拘束した。現在、この事実に関して、刑事事件提起することが決定された。

## エ 窃盗等

- ①〔窃盗〕サハリン州捜査局マカロフ地区捜査課は、パレーチエ村の3名の14歳の住人を窃盗罪で告発した。4月10日、未成年者3名が金銭窃盗を行うことを目的に12歳の友人が住む家を訪れた。未成年者達は予め配役を行い、未成年者の内の1人は、話をするために12歳の友人を路上に呼び出し、もう1人は、家の出入口の近くに立って周囲の状況を見張り、残りの1人は、部屋に侵入して1万2000ルーブルを盗み出したもの。
- ②〔窃盗〕サハリン州捜査局ホルムスク地区捜査課は、強盗容疑でホルムスク地区の14歳と16歳の住人を告発した。サハリン州捜査局によると、4月15日の未明、容疑者達は、以前、ユーヅヌィ通りに所在する70歳の住人が居住していた家の物置に入り込み、同居人が所有する5000ルーブルを盗み出したもの。

- ③〔窃盗〕 4月30日、サハリン州内務局ドリンスク市交通パトロール班の警察官が取り扱った刑事事件が、サハリン州捜査局ユジノサハリンスク市捜査課によって完遂された。サハリン州捜査委員会によると、男性がロシア刑法典に規定の窃盗の罪で起訴された。州中心に住む容疑者は、ショッピングセンター「シティーモール」内にある店の1つで3万2000ルーブルを盗んだもの。
- ④〔窃盗〕 4月末日、ユジノサハリンスク市の行政機関のある事務所に35歳の男性地元住民が立ち寄った。男性は、その事務所で待機していたところ、事務所の職員が事務所から居なくなったことから事務所に侵入し、数分間で財布、書類、15万6000ルーブルを盗んだ。サハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察の捜査員は、監視カメラの映像を調べ、容疑者を明らかにした。その後、容疑者の居住地を探索、発見し、盗んだ書類を押収した。容疑者は、空になった事務所に侵入し、短時間で高価な物を盗み、その後、姿を消した。容疑者は窃盗の前科がある。
- ⑤〔窃盗〕 5月7日、17歳のトゥンゴル村の住民が幾つかの窃盗行為の容疑でサハリン州内務局オハ地区警察捜査課の警察官に拘束された。サハリン州内務局によると、この住民が2012年、2013年及び2014年にトゥンゴル村で総被害額4万5000ルーブル以上の4件の窃盗を行ったことが捜査官によって明らかにされた。
- ⑥〔窃盗〕 5月20日、サハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察において、38歳の女性住民から自分のアパートで3万7000ルーブル相当の宝飾品が盗まれたとの通報を受けた。サハリン州内務局によると、通りで見知らぬ学生が被害者の息子に近づき、息子と会話するために連れ出した。2人の若者はコンピューターゲームに夢中になった、そして、その友人は、被害者の息子に違うゲームディスクでしばらく遊びたいと頼んできたことから、被害者の息子は、この依頼に同意をし、蒸し暑い自分の家に招いた。被害者の息子がゲームディスクを選んでいる間、この友人は、誰も自分の行為に注意が払っていないこの機会を利用して、宝飾品を盗んだ。警察官は、捜査活動を行う過程でユジノサハリンスク市に住む16歳の容疑者を発見した。少年は、盗んだ宝飾品を5000ルーブルで質屋に渡し、手に入れた金は、私物の購入に使っていた。この少年は、以前、同様の犯罪で刑事責任を追及されていることがわかった。
- ⑦〔窃盗〕 5月27日、ホルムスクの女性住民が自分の家から貴金属が無くなったとサハリン州内務局ホルムスク市内務警察に申告した。女性は、昼間、働いており、夜、家に戻ったところ、2万5000ルーブル相当の宝飾品が入った小箱がなくなっていることに気付いた。捜査活動を行い、捜査官は、事件状況を明らかにし、容疑者を拘束した。事件当日、家には被害者の未成年の息子が在宅していたことが明らかとなった。その息子は、家に17歳の学校の友人を家に招いた。息子は、その後、時々、部屋から離れることがあり、この機会を利用して17歳の友人は、宝飾

品を見つけ、それを盗み、アパートから立ち去った。容疑者は、盗んだ宝飾品を質屋に二束三文で売っていた。この事実に関して刑事事件が提起された。

⑧〔窃盗〕 5月27日、ある建設団体の従業員からサハリン州内務局ドリンスク市警察に鉄板10枚が盗まれたとの情報を受理した。警察官は、捜査活動の過程で33歳のドリンスク市の住民男性であることが分かった。この男性は、ある時期、賃金が未払いであることが分かり、この際、男性は、未払いの賃金を補うため、鉄板の窃盗を行うことを決心したが、その行為は折り良く、阻止された。この事実に関して、窃盗の刑事事件が提起された。

⑨〔窃盗〕 5月29日、サハリン州内務局によると、4月初めに27歳のドリンスクの男性住民と女性の友人が41歳の被害者女性のもとを訪れ、アルコール飲料を飲んでいて、アルコール飲料がなくなり、被害者であるアパートの所有者は、上述の若い男性に自分のクレジットカードと暗証番号を渡して、アルコール飲料を買いに店に行かせた。30分後、若い男性は戻ってきたが、アルコール飲料は持っていなかった。彼は被害者に落としてしまったと話したが、この時、全員がかなり酔っていたことからクレジットカードを彼に渡していたことを忘れていた。翌朝、被害者は、クレジットカードのことを思い出したが、銀行の携帯電話サービスにはアクセスしなかったが、彼女は、彼がそのクレジットカードで15万ルーブルを下ろしているとは疑っていなかった。それから1ヶ月半が経過した時、彼女は金が必要となり、銀行口座を確認したところ、資産が無くなっていることに気付き、警察に通報した。捜査活動を行う過程で警察は、容疑者を特定した。容疑者男性は犯行を自白した。盗んだ金は全て彼が個人的なものに使用したと明らかにした。容疑者男性は、以前から警察にマークされ、前科があり、無職であった。この事実に関して、窃盗で刑事事件が提起された。

⑩〔窃盗〕 5月29日サハリン州内務局ポロナISK市警察に女性地元住民が高額なノートパソコンが盗まれたとの通報があった。76歳の被害者女性は、身体障害者であり、家から出掛けることは稀であると話した。被害者女性は、パソコンを使用しておらず、パソコンを小箱に保管していたことから、いつ、誰が盗みを行ったか正確に言うことはできなかった。捜査活動の過程で警察は、容疑者を特定した。容疑者は被害者の隣人である30歳の男性であることが判明した。今月の初め、被害者は、容疑者に部屋の掃除を依頼した。この際、容疑者は、被害者が新しいノートパソコンを持っているのを発見した。容疑者は、被害者がノートパソコンを一度も使用したことがないを見て、自分で使用するためにノートパソコンを盗んだ。ノートパソコンは、押収され、被害者に返還された。この事実に関して、窃盗の刑事事件が提起された。

⑪〔窃盗〕 6月2日サハリン州内務局オハ市警察は62歳の女性から部屋から4万2000ルーブルが盗まれたとの申告を受理した。サハリン州内務局によると以前、

被害者女性は家に来た女性客と一緒にアルコール飲料を飲んだ。その際、被害者女性は、家から一時的に離れたことがあり、女性客は誰も自分の行動を監視していないこの状況を利用して、4万2000ルーブルを盗んだ後、女性客は、事件現場のみならずオハ市内からも姿を消した。その後、捜査で30歳の女性が犯人と認められた。捜査活動の過程で、容疑者女性はホルムスク市で警察により拘束され、オハ市に移送された。盗んだ金は、彼女が使ったことが分かった。

- ⑫〔窃盗〕6月7日、24歳の地元住民は、窃盗についてサハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察に申告した。サハリン州内務局によると、被害者は23歳の友人と共同で部屋を借りていたが、最近、他の地域に転居することを決めた際に、ノートパソコン、携帯電話、7700ルーブルが奪われた。被害者の損害額は3万9000ルーブル以上になった。捜査活動の過程で捜査官は、被害者の隣人を拘束することに成功し、盗難品を押収した。
- ⑬〔窃盗〕6月9日、サハリン州内務局オハ市警察の警察官は、捜査活動の過程で、24歳の男性地元住民を4件の電話線窃盗で現行犯逮捕した。サハリン州内務局によると、上述の男性は、屋根裏に侵入し、ワイヤーカッターで電話線を切断した後、電話線を隠匿した。その後、容疑者は、銅線の部分だけを残すために、電話線の外被を焼いた。容疑者は、入手した銅線をスクラップ屋に引き渡し、総額で1万ルーブルを手に入れた。容疑者によるこの行為の結果、2万5000ルーブル以上の損害が出た。この容疑者は、以前から警察にマークされ、前科がある。この事実により、3件の刑事事件が提起された。
- ⑭〔窃盗〕6月11日、サハリン州内務局ドリンスク地区警察において、ソーコル村の住民から日本製のセダン車が盗まれたとの申告を受理した。サハリン州内務局によると、捜査活動措置の過程で警察は、容疑者を特定した。容疑者は、2人の16歳の職業訓練施設の学生だった。被害者の外車は、警報装置を装備していなかった。また、被害者はドアに施錠することを忘れていた。少年達は、ガレージに忍び込み、車の運転席のドアを開け、エンジンをかけた。その後、犯人達は、盗難車を乗り回した。そして、犯人達は、盗難車を捨て、姿を消した。盗難車は、所有者に返還された。拘束された容疑者の1人は、ノヴァアレクサンドロフスク、ドリンスク及びウグレザボーツクでの一連の窃盗の容疑がかけられ、10件以上の類似の事件で容疑が持たれている。この事実に関して、刑事事件が提起された。
- ⑮〔窃盗〕6月16日、サハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察において、窃盗に関する通報を受理した。申告者は、ユジノサハリンスク市ジェレズノダローグヌィ通りの産業倉庫の敷地内で日本製の自動車盗まれたと話した。サハリン州内務局によると、警察は盗まれた30万ルーブルの旅客用バスの捜索に警察官を向かわせるとともに、盗まれたバスが隠されていないか、市内の各所で注意を払った。間もなく、捜索活動措置によって、盗まれたバスの発見、そして容疑者の拘束という

良い結果をあげた。容疑者は、窃盗の前科を持つ36歳の男性であった。この事実に関し、刑事事件が提起された。

⑩〔窃盗〕6月24日午前8時55分ころ、サハリン州内務局ノグリキ地区警察は、ノグリキ村5月15日通り14に所在する家屋の庭から日本製自動車盗まれたとの通報を受理した。サハリン州内務局によると、盗まれた外車は、6月25日午前1時ころ、ノグリキ村フィズクリトゥールヌィ通りにおいて、社会秩序の警備及び交通安全の確保の業務に当たっていた交通警察隊によって発見された。車両窃盗の事実で刑事事件が提起され、容疑者の捜索が行われている。

⑪〔窃盗〕6月中旬、ユジノサハリンスク市内の計画地区の女性住民が、よく知らない連中と通りで酒を飲んでいて。女性は、この連中の内の1人である29歳の男性とは初めて会った。その後、女性が家に向かう際、この連中は、女性の後をつけた。夜中にこの連中は、女性が住む2階建てのアパートの1階部分にある窓から忍び込み、女性が就寝している間に、貴金属、電子レンジ、テレビ、ホームシアター用アンプを盗み出した。盗品は、容疑者が玄関から運び出し、そして、事件現場から持ち去った。計画地区のノヴァアレクサンドロフスクに配置されているサハリン州内務局ユジノサハリンスク市警察の刑事捜索課の警察官は、捜査活動措置の過程で窃盗に関与している人物を特定し、拘束した。宝飾品は廃却されることを阻止し、家電製品は警察官が押収した。この窃盗の事実に関して、刑事事件が提起された。

#### オ 薬物・銃器

①〔薬物〕4月10日、ロシア連邦流通麻薬対策局の職員にユジノサハリンスク市ペールブィ・オクチャーブリ通りの某家屋でアヘン系麻薬が製造、保管されているとの情報が届けられた。家屋とガレージの捜索の結果、警察官は、麻薬の製造のためにすでに使用されたケシの実が入った幾つかの袋、麻薬製造の後に残された液体で満たされた数十個の容器（シンナーが入った燃料缶、ビン及び飲料水入った水筒）を発見した。その他に警察官は、血と麻薬物質の痕跡が残る綿球が詰められたセロファン袋、使用された注射器も発見した。これらの物件は刑事専門研究所において鑑定のため押収された。鑑定結果によっては、麻薬製造所の所有者は責任を問われることとなる。31歳の容疑者は、過去に違法麻薬流通に関する犯罪の前科がある。

②〔薬物〕4月12日、サハリン州内務局道路パトロール課特別大隊の隊員は、ユジノサハリンスク市ジェレズノダロージヌィ通り160-A地区において、道路交通安全確保のための職務を遂行中、明らかに他の者と行動が異なっている人物を発見した。上述の人物は、トヨタタウンエースのマークがある自動車の側に立ち、興奮状態であった。書類検査の際、この市中心部に住む43歳の住民は、友人が運転する自動車が故障したと説明したことから、同隊員は、この住民の検査を実施したところ、特殊な臭いのする植物由来の物質が入った紙包みを発見したものの。

- ③〔薬物〕4月17日、内務局サハリン州交通警察の職員は、ホルムスク市に到着した船舶「サハリン9」の捜索活動の過程で36歳のロシア人男性を拘束した。個人の警備検査の過程で、男性が所持していたハシシオイルと医療用注射器の断片が入った缶を押収し、麻薬物質の総量は333.68グラムであった。拘束者は、この麻薬は、自分で使うために、自らが作ったものだと説明している。
- ④〔薬物〕4月17日、アニワ市の配置のユジノサハリンスク市警察の当直部門において、救急隊員から、患者が植物性の物質が入った不審なポリエチレン製の包みを所持しているとの連絡を受理した。サハリン州内務局によると、以前2人のウスペンスカエ村の住民が自動車ドライブしている途中、運転手が運転を誤り、道路側溝に転落した。その後、乗客も運転手も長時間に渡って、輸送物から離れなかった。隣人が彼らを発見した際、隣人は、彼らの両親にそのことを伝え、両親はすぐに交通事故現場に到着した。客席で両親は、麻薬で酔っているような状態の自分の子供を見つけた。男達は、自制心を失った状態であったことから、両親は、救急車を要請した。患者達を病院に搬送した際、彼らの内の1人のポケットから不審なポリエチレン製の包みが落ちたことから、そのことについて警察に通報された。不審な包みは押収され、検査が行われる。
- ⑤〔薬物〕2014年4月18日、道路交通の安全確保のための任務を遂行中のサハリン州内務局国家道路交通監督部道路パトロール課特別大隊の職員は、ユジノサハリンスク市ジェレズノダロージヌィ通り27で日本製の自動車を停止させた。その外車の運転席には29歳の州中心に住むロシア国籍男性が乗っていた。動揺し、顕著に興奮し、酔った状態の運転手の行動が警察官の注意を引いた。警察官は、このロシア人男性の検査を行うことを決定した。2名の立会人のもと、検査の過程で運転手のジャケットのポケットから特殊な臭いのする植物性物質が入った紙包みを発見した。
- ⑥〔薬物〕2014年4月19日未明、サハリン州内務局国家道路交通監督部道路パトロール課特別大隊の職員によって、麻薬物質の違法運搬が摘発された。警察官は、トロイツコエ村ツェントラーリヌィ通り25地区において、28歳のホルムスク市住む無職の男性が運転する日本製自動車を停車させた。助手席には22歳の若者が乗っていた。書類検査の際、乗客は顕著に興奮していたことから、警察官は貨物検査を行うことを決定した。2名の立会人のもとでの貨物検査の過程で後部座席から2個の紙包みを発見し、その内の1個には麻薬と酷似する白色粉末物質が入っていた。今後の捜査のため、事件現場にユジノサハリンスク内務局地方相互課の機動捜査班が呼ばれた。発見物は、没収され、専門鑑定が行われる。
- ⑦〔薬物〕サハリン州流通麻薬対策局の職員に、ユジノサハリンスク市ユジノサハリンスク通り127に所在のアパートの女性所有者とその友人が毎日、アヘン系麻薬を製造しているとの情報が寄せられた。この住所は、麻薬対策局の職員が非常によ

く知っている住所であり、なぜならば、度々、女性所有者を麻薬使用の行政責任を追求するために捜索を行った場所であった。善良な住民が就寝準備をした4月22日の夜、麻薬対策局の職員は、自家製麻薬製造活動を阻止するため、一連の措置を行った。バラックタイプのこの家屋の部屋の内の1つで、女性とその友人達は、コデイン含有製剤、ガソリン、他の日用品で悪臭を放つ液体を製造した。その後、彼女達は、3人でそれを使い始め、正にその時、麻薬対策局の職員が部屋に現れた。サハリン州流通麻薬対策局の職員は、事件現場の捜索の過程で発見された麻酔作用のある液体が残る医療用注射器、麻薬を作った容器、暗褐色の液体が入った容器を押収した。全ての押収物は、州流通麻薬対策局の犯罪鑑定研究施設での検査に送られた。このアパートの女性所有者は、州中心部に住む37歳の女性であり、つい最近、母親となった。悪臭を放つ麻酔剤の製造に積極的に関与、参加した男性は、結核による2種身体障害者であることを指摘しなければならない。

- ⑧〔薬物〕4月25日、ユジノサハリンスク市カリエルヌィ通り27の住民からサハリン州流通麻薬対策局の職員に、アパートの住人の1人が麻薬隠匿部屋を作ったとの通報があった。事件現場の情報調査のため、流通麻薬局の特殊班班員が出発した。一連の処置の結果、班員は情報のあったアパートの部屋の内部に入り込むことに成功した。部屋の中には、「クロコダイル」(デゾモルヒネ)を使い終えた男性がいたが、犯罪行為の証拠であるガソリン、コデイン含有製剤が入った包み、アルカリ性物質、注射器等を廃棄することはできなかった。これらの物件はすぐに押収され、流通麻薬対策局の鑑定施設の犯罪鑑定人に検査のため送られた。検査結果によって、部屋の所有者は、行政又は刑事責任を追及されることとなる。部屋の所有者は、自分の母親と未成年の少女と居住し、働かず、麻薬常習者のための州麻薬予防診療所に登録がある。彼の友人達も同様に働かず、その内の1人は長期間に渡り、様々な麻薬を使用する一方、麻薬の違法取引の罪で裁判が行われ、彼ら全てに罰金により行政責任が言い渡されていることを指摘しなければならない。
- ⑨〔薬物〕4月25日、ユジノサハリンスク市に所在の住居の捜索措置活動を行う過程で、交通警察の職員が麻薬物質を所持する17歳の未成年を検挙した。捜索の過程で警察官は、未成年が所持していた植物性物質及び人工物質が入ったポリマー製の包み並びに紙包みを押収し、これらの物件は鑑定に送られた。未成年者は、これまで司法機関の取り締まり対象にはなっておらず、家族は予防機関への登録はしていない状態であった。この事実により、サハリン州内務局交通警察は、捜査を行っており、容疑者の行為がロシア連邦刑法典第228条の犯罪構成要件に該当することが明らかとなる。
- ⑩〔銃器〕2014年4月25日から26日の間、サハリン州の警察官は、市民の協力を得て、刑事及び行政法令違反の根絶並びに予防を目的とした予防処置活動を行った。この日の深夜にサハリン州の17地区において市民が集まる遊興施設、深夜

時間帯まで営業する商店、通り、家屋及びその他の場所の検査を行った。警察の活動期間において重犯罪に属する15件の犯罪が発覚し、284件の行政法令違反を行った64名のロシア人が拘束された。警察による捜索の過程で24丁の銃砲及び112発の弾薬が押収された。ポロナISK地区においては押収事実の内の1つが記録された。サハリン州内務局ポナISK市警察の警察官は、バフルシェフ村の46歳の住民の家の捜索を行ったところ、口径9ミリの弾6発、口径7.62ミリの弾1発、口径5.45ミリの弾2発、口径5.6ミリの弾2発が入ったポリエチレン製包みを発見した。更にこの夜に、警察はマリノフカ村のライフル銃を所持する男性の家の捜索を行い、口径7.62ミリの弾29発が入った布包みを発見した。これらの発見物は、押収され、鑑定に出され、捜査が続けられている。

- ⑪〔薬物〕2014年5月7日、サハリン州検察は、多量の麻薬物質の購入、違法入手で33歳のユジノサハリンスク市の住民を刑事事件で起訴することを決定した。サハリン州検察によると予備審理の過程で容疑者は販売目的なしの自己消費を目的としてモスクワ市のインターネットサイトで麻薬を注文した。容疑者の行為は、予審機関によりロシア刑法典第30条第3項、同報第228条第2号の多量の麻薬物質の購入、違法入手と認定された。この犯罪行為に対する罰則の適用条項の認定は、罰金50万ルーブル付加の3年から10年の自由剥奪刑又は労役又は財産没収が規定されている。
- ⑫〔薬物〕5月21日、サハリン州内務局マカロフ市警察の警察官は、「MAK-2014」作戦の捜索活動措置の過程で、マカロフ市に在住の38歳の男性が運転する自動車を停車させた。サハリン州内務局によると、この男性のボディチェックの際、麻薬物質が含まれていると思われるタバコの包み及び何本かの巻きタバコを発見した。警察官は、容疑者の自宅の捜索も行い、その際、不審物質が含まれている同様の物件を押収し、鑑定に出した。この事実に関して捜査が続けられている。
- ⑬〔薬物〕5月某日、サハリン州流通麻薬対策局の職員にユジノサハリンスク市に居住するキルギスタン共和国国籍の男性が、キルギスタンからサハリン州にカンナビノール系の麻薬物質の密輸に従事しているとの情報を入手した。流通麻薬対策局職員の一連の捜査活動の結果、麻薬の密輸に関与した人物を特定した。容疑者は、ユジノサハリンスク市フィズクリトゥールヌィ通り12に居住するキルギスタン共和国出身の29歳の男性エミリーと特定した。29歳の密輸者と32歳の女性アレブチナ、29歳の男性オレグが同居するアパートの捜索を行った結果、流通麻薬対策局の職員は、麻薬物質である100グラム以上のハシシオイル及び0.9グラムのハシシを発見し、押収した。取調べにおいてエミリーは、5月の初めにキルギスタン共和国ビシケク市のある地区でハシシオイルが入ったシャンプーの小瓶が入れられたカバンを見つけた。このハシシオイルは、彼が航空機でサハリンまで運んだ。ユジノサハリンスク空港には、アレブチナが彼を迎えにきており、空港から彼女と

彼女の客とともに帰宅し、ハシシオイルの一部を吸引する方法で使用した。アパートには、大量のハシシオイルのほかに、ハシシがあったと話した。現在、29歳の男性エミリーに対し、大量麻薬の密輸及び保管の事実により、刑事事件が提起された。

- ⑭〔爆発物〕5月27日、オジョールスキー村のある住民が爆発物を保管しているとの情報をサハリン州内務局コルサコフ警察が受理した。受け取った情報を調査し、警察官は情報にある住所に出発した。捜索の過程で警察官は、「トリニトロトルエン筒」と記載のある物体を発見した。検査を行ったところ、押収物は195グラムの本物の爆発物であった。アパートの所有者の39歳のロシア人男性は、トリニトロトルエン筒を亡くなった友人が以前、彼に残していったガレージの中で見つけた。男性は発見された危険物を警察に申告しないことを決め、自分でそれを保管していたもの。
- ⑮〔爆発物〕5月28日13時13分ころ、サハリン州内務局ユジノサハリンスク警察の当直部門において、州中心部の男性住民からの通報を受理した。男性は、ユジノサハリンスク市アビアツア通り70に所在するあるガレージで手榴弾に類似した物及びトリニトロトルエン筒を発見したと伝えた。サハリン州内務局によると、この住所に向け、即座に、警察官が出発し、警察官は、爆発危険物が発見された地区を封鎖した。そして、この住所に隣接する5階建ての家屋の住民を安全な領域に避難させた。軍の爆発物処理班が手榴弾とトリニトロトルエン筒を回収し、今後、廃棄処理される。その後、警察は、事件現場の捜索を行い、更に弾薬筒、弾薬を押収し、鑑定に出された。綿密な事件現場の捜索の後、事件現場と接する領域の封鎖は解除された。
- ⑯〔薬物〕5月29日、コルサコフ市において、サハリン州流通麻薬対策局の職員とサハリン州内務局の職員の合同活動により、麻薬物質の違法流通の疑いでコルサコフ警察の交通警察課パトロール班の職員が摘発された。事前の情報に基づく、司法機関職員に対する検査を行う過程で、この職員が押収の人工麻薬物質「スパイス」（偽大麻、合成カンナビノール）を所持していることが明らかとなった。この事実に関して、ロシア連邦内務省極東管区運輸局局長代理のセルゲイ・ノビコフは、即座に職務検査を開始した。職務検査の結果によって、コルサコフ警察の交通警察課パトロール班の警察官は、内務局機関から免職され、直接の上司であるコルサコフ警察交通警察課の課長は、資格審査委員会において厳しい管理責任を追及され、降格処分となる可能性がある。
- ⑰〔薬物〕6月4日、サハリン州流通麻薬対策局に、ユジノサハリンスク市スポルチーブヌィ通り17の住民からアパートのある住民が部屋の中に麻薬隠匿場所を作っているとの通報を受理した。事件現場に向け、流通麻薬局の特別班が出発した。特別班による一連の措置を行った結果、犯人の部屋に進入することに成功した。この

際、部屋の中には、若い女性と男性がおり、麻薬「クロコダイル」を使用していたが、自分の犯罪行為の証拠であるガソリン、コデインを含有製剤の包み、アルカリ性物質、注射器等を隠滅することはできなかった。これらの物件は、押収され、麻薬対策局刑事鑑定研究所に鑑定に出された。鑑定の結果によって、容疑者は、行政又は刑事責任を追及される可能性がある。

⑱〔薬物〕 6月5日、流通麻薬対策局の電話相談にユジノサハリンスク市プチェボイ通りに所在のバラックタイプのある家屋が麻薬「クロコダイル」を製造するための秘密工場として稼働しているとの通報を受理した。流通麻薬対策局の職員は、現場に到着し、悪臭を放つ液体を使用する部屋主とその客を急襲した。この液体を製造するため、麻薬製造者は、アルカリ、ガソリン、コデイン含有製剤等の日用品を使用していた。節約のため、顧客が静脈注射により麻薬を接種ために使用した医療用注射器を洗浄せずにお互いで使っていた。事件現場の捜索の結果、警察は、全ての麻薬「クロコダイル」の製造に使用した全ての物件及び麻薬「クロコダイル」を押収し、即座に流通麻薬対策局刑事鑑定研究所に鑑定に出された。鑑定人は、押収物質は、デゾモルヒネとの鑑定結果を出した。現在、部屋主に対して刑事事件が提起された。

⑲〔薬物〕 6月18日、再び、サハリン州流通麻薬対策局の職員にユジノサハリンスク市カリエルヌィ通り27の住民からアパートのある住人が自分の部屋に麻薬隠匿所を作っているとの通報を受けた。この住所は、麻薬対策局職員が初めて知った住所ではなかった。麻薬対策局職員は、アパートに入るのにかなりの努力をしなければならなかった。なぜなら、アパートには監視カメラが設置されていた。部屋には、男性と女性が居り、すでにアヘン系麻薬を使っていたが、ガソリン、アルカリ、注射器等の自らの犯罪行為の証拠を隠滅することはできなかった。デゾモルヒネのほか、部屋主と客達は、ケシの実の煮沸によって採取したアセチルアヘンを使用していた。麻薬の製造、使用に利用された全ての物件、物質は押収され、麻薬対策局の刑事鑑定研究所に検査に出された。検査結果によって、部屋主は、行政及び刑事責任を追及されることとなる。現在、この事実に関して刑事事件の提起が決定された。

⑳〔薬物〕 6月23日、サハリン州内務局の警察官は、「MAK-2014」作戦における捜索活動措置を行う過程でユジノサハリンスク市に住む25歳の男性容疑者を麻薬物質の保管で拘束した。サハリン州内務局によると、上述男性の捜索の過程で、白色粉末物質が入ったジッパー付の小袋2個が発見された。この不審な物件は、押収され、鑑定に出された。この事実に関して捜査が行われている。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

特になし

4 誘拐・脅迫事件発生状況  
特になし

5 日本企業の安全に係る諸問題  
特になし

